

事務事業名	ゆめ広場こども教室体験事業	整理番号	11404-000
所 管	児童館		

事務事業の位置付け

期間	平成 52年度 ~ 平成 年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 1-1 心豊かな人づくり 政策 1-1-4 青少年の健全な育成	関連政策 1-1-2 少年期の教育の充実(小中学校) 1-4-3 ボランティア活動の促進	

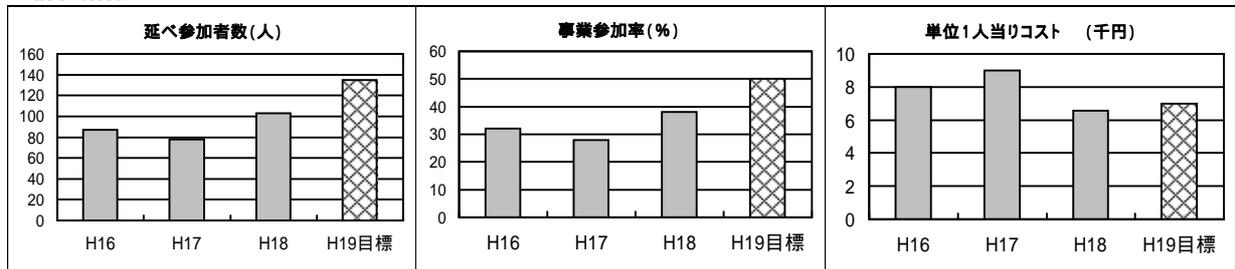
事務事業の内容

目的 (何のために)	子どもの為の体験教室を開催し、児童の健全育成全般に寄与すべく実施する
対象 (誰・何を)	小学生
手段 (どのようなやり方で)	各事業毎に募集をし、年間9事業を土曜日に児童館を拠点に活動 市生涯学習ボランティアセンターと児童館が連携して行う
成果 (どのような状態にしたいか)	体力作り、遊びをとおしての感情体験、野外体験をとおしての自然・環境への理解及び適応能力の向上が図れる
事務事業の背景・住民の意向	学校ではなかなか行われない野外教育の一環事業として好評である ボランティアセンターによる子どもへの遊びの伝承や昔の古き良き仕来りの伝承が図られる
見直し改善の経過	事業種目によって応募者のばらつきがある為、種目の選定を検討し参加者の増員を図る

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)
平成16年度	参加人数87人、定員人数270人	
平成17年度	参加人数78人、定員人数270人	
平成18年度	参加人数103人、定員人数270人	

評価指標



事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)		コメント	今後の方向性
観点別評価	必要性	子どもの為の体験教室を体験する事により、友達ができ学校では学べない体験を得ると共に遊びをとおして得た知識・体験が子どもの役に立ち子ども教育の向上を図ることができる	継続
	有効性		
	効率性		
一次評価	B		
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	今後の方向性
二次評価	C	参加人数も少ないことから事業内容等の抜本的な見直しが必要。	手段改善

改革プラン

平成19年度からの対応	広報ごてんば、同報無線、児童館だよりの活用はもとより学校や子ども会にも働きかけ参加者の増員をはかる
平成20年度以降の対応	広報ごてんば、同報無線、児童館だよりの活用はもとより学校や子ども会にも働きかけ参加者の増員をはかる。また、児童館から離れた地域の子どもの参加できるよう親子で参加できるメニューを作る
改革により予想される成果	事業参加者の増員により低学年から高学年及び親とのふれあいが図れ友だち作りや体験学習の場になる。